

令和元年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

筑西市 解答と解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解 説	答
1	天明7年(1787年)に小田原藩栢山(かやま)村(現・神奈川県小田原市栢山)に生まれました。若くして両親を亡くしましたが、生家を再興しました。その後、農村復興や財政再建の手腕が小田原藩や江戸幕府に認められ、真岡市の桜町陣屋や下館(しもだて)藩など数多くの地で指導しました。	3
2	今回、剣道競技は下館(しもだて)総合体育館で行われました。1974年(昭和49年)・第29回の前回大会では下館中学校体育館で行われましたが、成年男子優勝、少年男子準優勝というすばらしい成績を収めました。	4
3	冷蔵庫にもすっぽり収まってしまう小柄なごだますいか。甘さとシャリシャリ感は、他産地のものとは一味違うと大好評です。	1
4	青木 繁(あおき しげる)は、今の福岡県久留米市に生まれましたが、1905年(明治38年)頃、現在の筑西市に滞在していたといえます。大穴牟知命(おおなむちのみこと)は、古事記上巻にある「おおなむちのみこと(大穴牟知命・大国主命)」の受難の物語を題材としたもので、久留米市の石橋美術館に所蔵されています。	2
5	安倍晴明(あべの せいめい)は、平安時代において天文や占いなどの技術に優れた陰陽師(おんみょうじ)でした。「晴明伝記」によると、生まれてから5～6歳頃まで猫島(ねこしま)に居たといわれ、その後、都で活躍したそうです。	4
6	鳩杖(はとづえ)は杖の先に鳩の焼き物がついています。中国の古い逸話によれば長く働いた家臣をねぎらうために作られたといわれています。波山は1933年(昭和8年)から1952年(昭和27年)まで、波山が80歳になる年まで下館(しもだて)の高齢者(80歳)に直接渡っていました。	2
7	グランテラス筑西は茨城県内最大級のグランドステーション複合型「ハイブリッド道の駅」としてオープンしました。48,000平方メートルの広大な土地に農産物直売所やレストラン、カフェ、イベントスペース、農園などがあります。※「グラン」= 壮大な、魅惑的な という意味	3
8	2007年(平成19年)1月30日、市町村合併により筑西市、高梁(たかはし)市として誕生したことを契機に、両市民間の交歓を基礎として、将来にわたり友好親善を深め、両市が永く相携えて住みよい都市を建設し、生生発展(せいせい はってん)を期するため、友好都市協約を再締結しました。豪雨被害を受けた高梁市に、給水車2台と支援物資を積んだ10トントラックを派遣しました。	1
9	葦間(あしま)山古墳は前方後円形の墳墓で、徳持(とくもち)の小貝(こかい)川左岸にあります。現在、前方部は畑地となっており、後円部には針葉樹が茂っています。新治国造(にいはいりのくにのみやつこ)支配領域では最大の古墳です。	2
10	青空と緑の筑波山を背景に、濃い黄色のヒマワリ畑が一面に広がる「あけのひまわりフェスティバル」では、八重ヒマワリなど約100万本のヒマワリが楽しめます。	4
11	五行川(ごぎょうがわ)または勤行川(ごんぎょうがわ)は関東平野北部を北から南へと流れる一級河川。(一級河川とは、私たちの暮らしを守り、産業を発展させるうえで特に重要なかわりをもっている水系のなかの河川のうち、国が管理している河川)市街地を流れる勤行川では、11月上旬から12月下旬まで、川岸や橋の上から遡上する鮭の魚影や産卵の様子を手軽に見ることができます。	2
12	五郎助山(ごろうすけやま)ではターザンロープやハンモックなどがあり、オリエンテーリングや植物観察などの自然を通してさまざまな体験ができます。	4
13	「ちっくん」は帽子で筑波山と河川に育まれた緑豊かな筑西市を表現し、この肥沃(ひよく)な大地で育ったナシやイチゴ、そして筑西市の花「コスモス」を配置しています。また、からだは全国有数の生産量を誇る「ごだますいか」、そして、百万本の八重ヒマワリで彩られるひまわりフェスティバルのヒマワリのポシットを身につけていますので、関わりがないものはウメになります。	3
14	常陸国の水谷(みずのや)氏は、藤原秀郷(ふじわらの ひでさと)の流れをくむ一族です。戦国時代に下館(しもだて)城を拠点に、水谷蟠龍齋(みずのやばんりゅうさい)という人が活躍しました。	1
15	種類によって収穫できる時期が異なり、幸水(こうすい)、豊水(ほうすい)、秋月(あきづき)、新高(にいたか)、にっこり等がある。ヘタが黒ずんでいない新鮮なもの、皮の色つやが良く、硬いものが美味しいようです。	3
16	人面付土器が出土した女方(おさかた)遺跡は、鬼怒川左岸台地上の女方地内にあります。この遺跡は、東日本で初めて弥生時代中期の再埋葬(弥生時代の墓制で、遺体をいったん白骨化させた後、その骨を壺などに入れなおして再び埋葬した墓のこと)の存在が明らかにされたことでも知られています。	2
17	下館(しもだて)祇園まつりは大町の羽黒神社を中心に、4日間に渡って行われる県内屈指の夏祭りです。	4
18	小栗判官(おぐり はんがん)は、小栗満重(おぐり みつしげ)の子であり、小栗城の城主・小栗助重(おぐり すけしげ)がモデルになっているといわれています。毎年12月に行われる小栗判官まつりでは、馬に乗った小栗判官と御所車(ごしよぐるま)に乗った照手姫(てるてひめ)が、侍女(じじょ)や武者(むしゃ)にふんした人々を引き連れ、新治(にいはいり)駅前通りを練り歩きます。	1
19	母子島(はこじま)遊水地では、年に2回、筑波山山頂から太陽が昇る「ダイヤモンド筑波」を見ることができます。撮影のチャンスは10月28日前後と2月14日前後になっています。	3
20	下館(しもだて)城主・水谷勝隆(みずのや かつたか)は、荒地の開拓や運河を開通させるなど、土木技術に長けていました。この技術力の高さを評価され、1625年(寛永2年)上野寛永寺弁天堂を建立しました。	2
21	SL真岡号は「C11 325」と4「C12 66」の2つあります。1「C58 363」は秩父鉄道の「パレオエクスプレス」、2「C11 207」は東武鉄道の「大樹(だいじゅ)」、3「C61 20」はJR東日本の「みなかみ」です。	4
22	アルテリオは2003年(平成15年)に開館しました。アルテはスペイン語で「芸術文化」、それにトリオ(しもだて地域交流センター、しもだて美術館、市民協働まちづくりサロンの「3」課)を組み合わせました。	1
23	筑西市の常住人口は101,068人。人口10万人を守る取り組みを考えております。※2019年(令和元年)7月1日現在	2
24	筑西市と栃木県真岡(もおか)市にまたがって7つの羽黒(はぐろ)神社が点在しています。下岡崎(しもおかざき)羽黒神社、竹島(たけしま)神社、大根田(おおねだ)羽黒神社(真岡市)、口戸(くちど)羽黒神社、上羽黒(かみはぐろ)神社、外塚(とのか)羽黒神社、そしておなじみの下館中心部にある下羽黒(しもはぐろ)神社になります。	3
25	江戸時代中期に建てられた古民家を移築復元した筑西市立農業資料館には、昔の農機具や生活道具が数多く展示され、昔の生活の様子を知ることができます。	4